

編集後記

◇ 本号が読者の皆様の手に届く頃、10月13日は「サツマイモの日」である。

このサツマイモの日は、昭和62年に「川越いも友の会」が広く公募して決定し、全国に宣言したものである。その由来は、全国的にサツマイモの旬は10月であること。また、江戸時代の“九里（栗）四里（より）うまい十三里”という有名な謳い文句から13をとり、10月と結び付けた等とされている。

このサツマイモの日にちなんで、10月以降、各地でサツマイモの祭りや記念行事が催されている。例えば、10月13日には川越の妙善寺の「いも地蔵」の前で「いも供養」が、沖縄県嘉手納町で「野國總管まつり」が、青木昆陽の墓がある東京の目黒不動尊で「甘藷まつり」が、また、千葉県香取市では「栗源のふるさと いも祭り」等が盛大に開催されてきた。しかしながら、今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、残念ながら、開催中止となるところも多いので、訪問される場合には事前に開催の有無の確認をお勧めする。

◇ 本号No.145では、特集として「経営体強化プロジェクト・青果かんしょ貯蔵の概要」を掲載した。この経営体強化プロジェクトは、平成27年にTPP交渉が大筋合意されたことに伴い、農林水産省が、3年間の実証研究プロジェクトで確立した技術体系が速やかに普及され、地域の競争力を強化することを目的に公募で実施されたものである。

このプロジェクトは7つの研究分野からなり、そのうちサツマイモについては、3年間の研究期間で求められた達成目標は、「出荷期間を通じて一定水準以上の品質に安定させる技術を開発する。さらに技術導入により、販売価格として2割以上の高付加価値化を図り、1割以上の所得向上効果を得られることを明らかにする。」というものであった。この公募課題に対し13機関によるコンソーシアムを結成して応募して採択され、平成29年より3年間、研究開発と実証試験を実施したものである。成果の詳細は本文を参照され、今後の普及に生かして頂きたい。

◇ 新型コロナウイルスの感染拡大は、引き続いており「第2波」ともいえる山場を迎えているとのことである。国内の感染者合計では、9月中旬時点で7.5万人を超えている。第2波の傾向としては、20、30代の若手感染者が増加していること、第1波では「東京問題」と言われたが、第2波では大阪、愛知、福岡などの大都市圏や地方都市に拡散し全国の感染者を増加させている。ピークアウトの兆しもみえるが、「新しい生活様式」に習い収束に向けた一層の努力が必要のようである。

振興会事務局でも、交代勤務や時差通勤で対応しており、業務の停滞などでご迷惑をおかけすることをお許し頂きたい。

（鈴木 昭二）

いも類振興情報 第145号

2020(令和2)年10月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社